

## 学会参加報告

神奈川県三浦郡葉山町の「湘南国際村センター」で6月10-11日に開催された第52回日本節足動物発生学会大会に塘研究室の角田真琴さん（環境システムマネジメント専攻4年）、学術振興会特別研究員（PD）の真下雄太さん、塘の3名が参加しました。角田さんは3月に大学院博士前期課程を修了した木目澤友梨恵さんの研究の一部を引き継いでおり、『山岳域特異的に分布する *Thrips* 属の一種の遺伝的多様性（アザミウマ目：アザミウマ科）』とのタイトルで発表を行いました。以下に簡単に報告します。

学会は10日の13:30に開会し、角田さんは初日、角田・木目澤・兼子伸吾・塘の連名で、福島県や長野県などの山岳域に分布する *Thrips* 属の未記載種の遺伝的多様性について、mtDNAのCOI領域の部分配列に基づく予報的な発表を行いました（この研究については、磐梯朝日遷移プロジェクトの研究成果報告会でのポスター発表はしましたが、学会での発表は初めてです）。学会は参加者数約30名、発表題数13題とごちんまりしたものでしたが、その分、議論の時間が長く取れて、有益なコメントやアドバイスを頂くことができました。角田さんにとって4年生のこの時期の学会デビューは準備や当日の緊張など大変だったでしょうが、得るものが多かったと思います。初日は立食形式の夕食やその後のワークショップ（と称する二次会）でも研究や所属機関での様々な話、フィールドでの調査の話など、ディスカッションが遅くまで続きました。二日目は発表終了後、恒例の記念撮影をセンターに隣接する公園（太平洋や富士山が眺望できました）で行い、総会、昼食後、解散となりました。

塘の車で行了きましたので、帰路の途中で兼子研究室の大学院生（佐藤浩一君）の研究材料、チビコケカニムシのタイプ産地（横浜市根岸）に寄り、自然が残っていそうな根岸森林公園と本牧山頂公園でリターを採取しました。現在、土壌動物抽出中ですが、チビコケカニムシが採れることを祈っています。



学会会場「湘南国際村センター」



発表中（写っていない場所に座長・聴衆がいます）



センターに隣接する公園から太平洋を臨む



根岸森林公園（横浜市中区）のリター採取場所